

令和5年度 第2回 健康医療推進分科会
事前ご意見・ご提案への回答

| ページ | ご質問・ご意見 | | 回答 |
|----------------|---|---------|---|
| 資料2-2 18ページ | <p>「タバコをやめて欲しいと思う子どもの数について」</p> <p>(質問)周りにタバコを吸う人が減れば、必然的に受動喫煙の機会なども減って、「タバコの害」について認識する機会も減少する。どうやって増やすのか、具体的な施策を教えてください。</p> <p>(意見)学校薬剤師による薬物乱用防止教室の一環として、タバコの害について解説することも可能である。小中高において積極的に学校薬剤師を活用していただきたい。</p> | | |
| 資料2-2 20ページ | <p>「特定健診の受診率について」</p> <p>(質問)これまで様々な施策が講じられてきた。今後さらにどのような施策を講じるのか、具体的な方向性を教えてください。</p> <p>(意見)『今年受けないと来年受けられないかもしれません』というようなNudge(ナッジ)を用いた方法はどうか？受けないと損をする(実際に体に問題があるのに早期発見できなければ損をする)ということを前面に押し出していくべきと考えます。</p> | | |
| 資料4 | <p>「認知症の早期発見に係る施策について」</p> <p>(意見)前回の会議でもコメントしましたが、生活習慣病の発症予防・重症化予防(≒早期発見)だけでなく、認知症の早期発見に対してどのように取り組んでいくのか。</p> <p>第2次計画(2018年~)では、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(123頁)において「①認知症初期集中支援推進事業」(⇒認知症と疑われると報告があつてから関与)「③若年性認知症施策の強化」(⇒若年性認知症として診断されてから関与)として記載があるのみで、特定健診などと連動した能動的な早期発見に努めていくべきだと考えます。</p> <p>また、脳の健康度を確認する具体的なツールであり、採用している自治体があるものとして、エーザイ株式会社が開発した「のうKNOW」(https://nouknow.jp/about/)を参考にできるのではないかと。</p> | | |
| 資料4 | <p>次期総合保健福祉計画の理念・基本目標(案)について 基本目標5 情報を活かして、安全・安心に暮らせる 「ICTの活用など様々な手段・・・」とのことですが いのち支える自殺対策計画にある基本施策の「児童生徒のSOSの出し方に関する教育」とあります。 昨今、小学生・中学生もスマホなどICTを活用しています。 出されたSOSをいかにICTを通じてキャッチする仕組みを構築されているのか具体的にあれば知りたいです。</p> | 学校教育推進課 | <p>普段から教員と子どもが関係づくりをする中で、1つの方法として、直接話をすることが苦手な不登校傾向や気になる児童生徒に対して、GIGA端末(タブレット端末を1人1台貸与)のTeamsを活用し、子どもからのメッセージをキャッチし、子どもの心の状況を把握するとともに、スクールカウンセラー等の専門家と相談し、対応できるよう体制を構築しております。</p> <p>※Teams: 先生やクラスメンバーとチャットや資料共有等を行う機能があり、先生とは、直接メッセージのやり取りをすることが可能。</p> |